

## リニューアル後の児童青少年向けサービスと連携協力

国立国会図書館国際子ども図書館  
児童サービス課課長補佐  
檜木 恵美子（ならき えみこ）

### はじめに

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として設立された、日本で唯一の国立の児童書専門図書館です。1906年に帝国図書館として建てられた建物を改築して「子ども読書年」であった2000年に第一期開館し、2002年に全面開館しました。

「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念のもと、3つの役割（①児童書専門図書館としての役割、②子どもと本のふれあいの場としての役割、③子どもの本のミュージアムとしての役割）に沿って、様々な活動を行っています。

2015年6月には地上3階地下2階建て新館（アーチ棟）が完成し、建物と共にサービスもリニューアルしました。本日は、増改築後の国際子ども図書館の児童青少年向けサービスと、国際子ども図書館のさまざまな連携協力、特に近隣文化機関との連携を紹介します。

### 1 2015～2016年のリニューアルの概要

#### (1) 新館（アーチ棟）の概要

既存の建物は1906年建築の歴史的建造物で、現在使用するには制約が多く、また書庫が満架に近づいたため、新館を建設して収蔵力を高めるとともに、サービスを拡充しました。

2階の児童書研究資料室は、既存棟では2室に分かれていた資料室を統合し、2015年9月に開室しました。児童書関連の研究書や外国で刊行された絵本、現在使用されている教科書などを開架しています。1階には研修室が2部屋新設され、講演会や研修などのイベントに活用しています。3階は事務スペース、地下の2階分は書庫になります。

#### (2) 既存棟（レンガ棟）の改修

新館（アーチ棟）に児童書研究資料室が移った後の部屋を改修し、2016年2月に新しく日本の子どもの本の歴史をたどる展示室「児童書ギャラリー」と中高生向けの資料室「調べものの部屋」を開室しました。

また、主に小学生以下の子どもを対象とした資料を約9,000冊集めた「子どものへや」に

は改修を機に、小さな子どもと保護者が靴を脱いで本を読むことができる「ちいさな子どものための絵本コーナー」を新設しました。週末は多くの親子連れがこのコーナーを利用しています。

## 2 リニューアル後の中高生向けの新規サービス

### ①調べものの部屋

2016年2月に開室した調べものの部屋は、中学生・高校生のための資料室です。調査やレポート作成に役立つような本を約1万冊揃えています。また、上野公園内の他の施設と合わせて利用できるように、上野に関係する本のコーナーや近隣の美術館・博物館の企画展に合わせた関連資料の展示コーナーを設けています。

この部屋の開室により、これまで課題だった青少年向けのサービスが拡充しました。また、この部屋の資料を基にして、次のサービスを開始しました。

### ②調べもの体験プログラム

2016年4月から始めた新しい中高生向けサービスを紹介します。上野の文化機関には、日本中の中高生が修学旅行や校外学習に訪れます。「調べもの体験プログラム」は修学旅行や校外学習のグループが対象です。「調べものの部屋」の資料等を使って、参加者が課題やクイズに取り組みながら、短時間で“図書館における調べもの”を、様々な形で体験します。プログラムは、中学生向け、高校生向けそれぞれ3コース、計6つのコースがあります。

#### 中学生向けプログラム

##### A. 「調べもの対戦」コース

4名前後のチームに分かれて、課題に挑戦します。ネット検索と文献探索、それぞれの特長や違い、調べ方の“コツ”を体験します。

##### B. 「調べものクイズ」コース（中学生編）

数人のチームまたは個人で、前もって配られた3択式などのクイズ数問に挑戦します。どの問題も、調べものの部屋の資料やインターネットを用いて調べ、制限時間内になるべく多く正解することを目指します。

##### C. 「ストーリー創作」コース

外国語の絵本を使って、絵だけでストーリーを創作し、その面白さを競います。4名前後のチームに分かれ、絵だけをみて物語を想像します。1つの場面に1人が物語をつけ、チーム内で順々に回していきます。できあがった物語は絵本を朗読するように発表します。

#### 高校生向けプログラム

##### D. 「レファレンス体験」コース

図書館で調べることを、利用者と図書館員、“2つの視点”から体験するコースです。「利用者」チームは調べものの部屋の資料を用いて質問＝課題を作成し、「図書館員」チームは

その課題の解決に挑戦します。“調べる”という行為を、課題の作成と解決の両面から体験します。

#### E. 「調べもののクイズ」コース（高校生編）

やり方は中学生編と同じですが、問題のレベルを高校生向けに少し高度にしています。

#### F. 「POP 広告作成」コース

本屋さんでよく見かける、その本の特徴や感想を書いた POP 広告の文言（コピー）を、短時間で作ります。調べものの部屋の資料を 1 人 1 冊選び、内容を短時間で把握して、そのエッセンスを、人に伝わるような短い言葉で表現することに挑戦します。

2016 年度の調べもの体験プログラムの参加は 30 校 375 人でした。開始当初は手探り状態でしたが、試行錯誤を重ねながら、だんだん参加者のレベルに合わせた問題を用意できるようになってきました。将来は美術館や博物館と連携できる、新たなプログラムを検討したいと考えています。例えば図書館で恐竜のことを調べてから国立科学博物館へ骨格標本を見に行き確かめる、美術館で見た絵の画家について図書館で調べる、などです。

### 3 国際子ども図書館の立地場所—上野公園

国際子ども図書館のある東京都立上野恩賜公園（上野公園）内には、上野の森美術館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京国立博物館、東京都恩賜上野動物園（以下、上野動物園）、国立科学博物館、東京藝術大学、東京文化会館そして国際子ども図書館と、9 つの文化機関が集中しています。その中で国際子ども図書館は、毎年多様な公開イベントを開催して、子どもの読書活動の推進に取り組んでいます。美術館や博物館も、近年は子ども向けのサービスに力を入れるようになり、「子ども」という共通のサービス対象に、分野を越えて連携した取組ができるようになりました。隣接しているため、互いに何をやっているかよくわかり、相談もしやすいのが利点です。子ども向けのイベントは開館時から実施してきましたが、連携によってより多様で幅広い取組が可能となりました。

### 4 近隣文化機関との連携による児童青少年向けサービス

上野動物園飼育員のお話と絵本の読み聞かせを組み合わせ、「子どものためのおたのしみ会」は 2011 年から、毎年開催しています。テーマとなる動物を決め、図書館の職員がテーマの動物が出て来る絵本を読みます。動物園の飼育員は動物園内での様子や生態などを説明します。最後にテーマにあわせたブックリストも配布します。2016 年のテーマ動物はカバでした。動物園からカバの頭骨やえさ、カバの歯を持ってきて、子どもたちに見てもらいました。新しくできた研修室のスクリーンを使って、動物園での様子も動画でも紹介しました。終了後は、子どもたちに動物園へ移動し、実際に動物を観察してもらいます。

クラシックコンサートやオペラなどの公演を開催している東京文化会館等との連携による室内楽と絵本の読み聞かせを組み合わせたコンサートも毎年春と秋に行っています。会

の最後には図書館の職員が音楽や、演奏に使われた楽器に関する本の紹介を行います。

2013年から、上野公園の9機関が連携して、子どもたちのミュージアム・デビューを応援し、学びの場を広げることを目的とするプロジェクト「**Museum Start** あいうえの」を実施しています。2015年には、国際子ども図書館での絵本の鑑賞から始まりアート・音楽の表現活動までを総合的に体験する「あいうえの冒険隊」という企画を行いました。また、2016年7月には国際子ども図書館を会場として、2014年に国際アンデルセン賞の画家賞を受賞したブラジルの絵本作家ホジェル・メロ（Roger Mello）氏を招聘し、子ども向けの絵本ワークショップを開催しました。

こういった上野公園内の文化機関と連携して行うイベントにより、これまでは関心のあつた特定の機関にしか足を運ばなかった子どもたちを連携先の機関に呼び込み、新しい利用者層が開拓されるという効果が生まれています。また、連携機関のスタッフのお互いの機関に対する認知度が上がり、それぞれの専門機能を生かして協力し合うことで、単独では為し得なかった、幅広い内容の教育普及活動が行えるようになりました。作家によるワークショップでは、小学生だけでなく、通常の図書館利用や美術館・博物館プログラムではほとんど見られない中学生、高校生の参加も複数あり、子どもの関心やニーズにあった多様な導入プログラムを用意することが、結果として青少年の本との出会いの機会を増やすことにつながることも確認できました。

## 5 その他の連携協力イベント

国際子ども図書館の使命として、国際的な連携の下に、国内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを行うことがうたわれています。現在、世界の約150の国・地域の図書を所蔵しており、それに基づく図書館サービス、展示会、外国人作家などによる講演等を行っています。

連携協力も、国立図書館として国内関連各機関と行うものと、国際的な観点に基づくものがあります。国内のものは、近隣文化機関の連携以外に、子どもの本と読書に関わる諸機関との連絡会議の開催、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会との共催講演会などがあります。

国際的な観点に基づくものの例として、日本国際児童図書評議会（JBBY）との連携による展示会の実施を紹介します。「世界のバリアフリー絵本展」は国際児童図書評議会（IBBY）が2年に一度作成している推薦図書リスト“Outstanding books for young people with disabilities”に収録された、手話付き絵本、さわる絵本、やさしく読める本、障害が描かれている本などを展示、「国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展」は国際アンデルセン賞受賞者のこれまでの諸作品、IBBY オナーリスト（優良作品）の推薦作品とその邦訳書を展示します。

「絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの」は、IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会が、世界の子どもたちが絵本を通じて国際理解を促進することを目的にした「絵

本で世界を知ろうプロジェクト」で、各国の図書館員がその国の代表的な絵本を10冊ほど選んでセットを作り、世界各地で展示会を開催するものです。セットは2組作られ、1組は国際子ども図書館に寄贈されました。国際子ども図書館では自館で展示会を開催するほか、2013年度以降、こちらの国立子ども青少年図書館のほか、国内12機関やオーストラリアに貸し出しています。ご紹介した3つの展示会は、展示された本を手にとって見ることが出来ます。

このほか、各国大使館と共催して、その国の児童書の紹介や子ども向けワークショップを行っています。

## まとめ

子どもの読書リテラシーや図書館リテラシーの向上に結びつく取組は、国際子ども図書館の重要な施策の一つです。子どもが本に親しむきっかけや継続的な図書館利用につながるサービスの提供、関係機関との連携による子どもの読書活動推進支援を掲げた「国立国会図書館国際子ども図書館子どもの読書活動推進支援計画2015」に沿ったものです。

このような取組を自館内で留めるのではなく、ウェブサイトや刊行物等で情報発信することで、地方の公共図書館等での多様な読書活動推進に役立つことも目指しています。

また、2018年3月には、児童サービスに関わる人や図書館関係者を対象とした研修交流会を新たに開始します。今後に向けた課題として、①中高生の読書活動推進支援に向けた取組の充実、②子ども向け電子情報・書籍とそれらを使ったサービスの導入を考えています。

国際子ども図書館では、これからも様々な形で児童青少年の読書振興に向けた活動に取り組んでいきます。

以上、簡単ですが「リニューアル後の児童青少年向けサービスと連携協力」についての説明を終わります。

最後になりましたが、この日韓業務交流は児童書に関する国立図書館間の定期的な交流としてはただ一つのもので、当館にとりましてたいへん貴重で重要な連携協力の機会です。このような報告の機会をいただきまして、ありがとうございました。